

第7回揖斐川町消防教練会開催

〜規律動作を競い合う〜

11月3日(日)、第7回揖斐川町消防教練会が、市場グラウンドで開催されました。大会の結果は次のとおりです。

◎総合

- 優勝 大和分団
- 準優勝 揖斐分団
- 3位 小島分団

◎小隊訓練の部

- 優勝 大和分団
- 準優勝 小島分団
- 3位 揖斐分団

◎各個訓練の部

- 優勝 大和分団第4班
- 準優勝 揖斐分団第2班
- 3位 大和分団第2班
- 4位 小島分団第2班
- 5位 小島分団第4班
- 6位 大深分団第2班
- 7位 大深分団第3班
- 8位 大深分団第1班
- 9位 本部 第2班
- 10位 大和分団第3班

◎団長賞(敬称略)

最優秀指揮者賞 揖斐分団

野原 友和

優秀指揮者賞

大和分団第4班

優秀指揮者賞

久保田大介

優秀指揮者賞

大深分団第1班

山岸慎太郎  
高橋 伸弥



▲小隊訓練



▲各個訓練

環境学習会を開催

〜谷汲の四ツ谷沼〜

9月28日(土)、谷汲深坂の四ツ谷沼ビオトープ公園で環境学習会が行われました。

数多くの水生生物が息している四ツ谷沼ビオトープ公園は、町と地域住民が、ワークショップを開き、生態系配慮施設として平成22年に整備されました。

この日は、四ツ谷沼ビオトープ公園を守る会と地域の子どもたち、それに東海農政局の職員が、四ツ谷沼に生息している魚などの水生生物をたも網をつかって捕獲し調査しました。

有識者の指導で参加者は、カバタモロコやメダカなど多種の水生生物の生息を確認しました。その結果、良好な環境状況を保っていることが分かり、参加者らは喜びを見せていました。



▲たも網で水生生物を捕獲

オープンスクールいびがわ

〜生徒らがスポーツの精神学ぶ〜

10月5日(土)、揖斐川中学校で親子で学ぶオープン・スクール・いびがわが行われました。

今年は、プロテニスプレーヤーとして活躍している秋田史帆選手を招いて「与えられたこの命、精一杯生きよう!」をテーマにした講演が行われました。

秋田選手は、愛知県一宮市出身のプロテニスプレーヤーで17歳で世界ジュニアの4大会に出場したほか、様々な国際大会で輝かしい成績を残しています。「コートの上では、何があってもあきらめない」をモットーにプレーしている秋田選手は、「自分に負けない勇気を持つことが大切です」と力強く話し、生徒にエールを送りました。

また、海外遠征のエピソードや、テニス部員とのミニテニスも行い会場を盛り上げていました。



▲テニスを教える秋田選手



▲優雅な音色が響き渡りました

音楽と食べ物を楽しむイベント「MOONBAR(ムーンバル)」が、10月5日(土)、谷汲サンサンホールで開催されました。秋の夜に屋外で、食事を楽しみながら音楽の生演奏を聞くこのイベントは、谷汲門前街並ぶ通り委員会の主催で開催されました。残念ながら当日は、悪天候のため屋内での開催となりましたが、それでも町内外から多くの人々が訪れました。

演奏は、揖斐川中学校吹奏楽部と池田町出身のピアニスト 小川加恵さんが所属するデンハーグピアノ五重奏団など4つの音楽グループ。

デンハーグピアノ五重奏団は、ヨーロッパの古い楽器でその当時の音楽を演奏するのが特徴です。

モーツァルトのピアノ協奏曲など7曲を演奏し、客席から大きな拍手が送られていました。

## MOONBAR

♪音楽鑑賞の夜♪



▲宮腰理さん率いるミヤコシオサムトリオの皆さん

10月10日(木)、ミュージシャンの宮腰理さんと宮腰さん率いるJAZZバンド、ミヤコシオサムトリオのメンバーが大和幼稚園を訪れ園児らに音楽の楽しさを伝えました。テレビCMのナレーションや歌手として活躍する宮腰さんは、歌唱力のみならず、型にはまらないスタイルが若者に人気のミュージシャンです。

この日は、ピアノやアコーディオン、ギター、ウッドベースなどを使ってオリジナル曲、数曲を演奏しました。リズムカルなテンポと明るい歌声に子どもたちも自然にひきこまれ、体を揺らして歌詞を口ずさんでいました。

宮腰さんは、「音楽は言葉を使わなくても思いが伝わる。子どもたちに音楽の楽しさを感じてほしい」と話しました。

## 大和幼稚園で音楽ライブ

♪宮腰理さんの楽しい音楽♪



▲上ヶ流太鼓踊り

10月12日(土)は春日上ヶ流地区、13日(日)には春日下ヶ流地区、26日(土)、27日(日)には春日種本中瀬地区、11月2日(土)、3日(日)には春日寺本地区で太鼓踊りが披露されました。

春日の太鼓踊りは、豊年祈願や感謝の踊りとして古くから地域の人に親しまれ、受け継がれています。これらの踊りは岐阜県重要無形民俗文化財に指定され、毎年多くの観客が見物に訪れます。

鮮やかな衣装を身にまとった踊り手が、太鼓を付け鉦や笛の音色に合わせて踊り、鎌倉踊りとも呼ばれています。

今年も各所で行われた太鼓踊りは、春日の山里に軽快な音色を響かせていました。また、10月5日(土)と9日(水)には、戦国時代に東本願寺の門徒が躍ったとされる「顕教をどり」の披露もありました。

## 岐阜県重要無形民俗文化財 春日の太鼓踊り



▲お茶漬け選手権で盛り上がる会場

10月13日(日)、ラーニングアーバナー横蔵(谷汲木曾屋)で、環境イベント「第4回アースデイ・いびがわ」が開催されました。

西濃地域の環境NPOなどで組織する実行員会が主催するこのイベントは、エコバックやマイ箸など、環境にやさしい行動を広める「ぎふ・エコライフ推進プロジェクト」をPRすることを目的として毎年開催されています。

県産食材を使った、地産地消のお茶漬けを食べ比べて投票するお茶漬け選手権が今年も行われ、来場者の人気を集めていました。グランプリに輝いたのは初出店の「川の駅 旬の味おか多(大野町)の「鮎から茶漬け」でした。

そのほか、環境クイズビンゴなどのステーションイベントや間伐材を使ったクラフト体験も行われました。

## アースデイ・いびがわ開催

♪お茶漬け選手権で地産地消♪

**ふじはし星の家 東館 完成**

〈広くなった研修施設〉

今年1月から工事が進められていた宿泊研修施設「揖斐川町ふじはし星の家 東館」が完成し、10月16日（水）に完成式が行われました。

ふじはし星の家は、平成2年に揖斐川上下流域住民の交流と連携を促進する目的で開設された宿泊研修施設で、近年の利用者の増加に伴い新たに東館の建設を進めていました。

収容客数は、従来の60名から150名と大幅に拡大し、大人数や複数の団体の受け入れが可能になりました。

この日は、関係者ら約60人が式典に訪れテープカットやくす玉割りで完成を祝いました。また、ふじはし幼児園とくげ幼児園の園児らが鼓隊演奏を行い完成に花を添えました。宗宮町長は「来てよかったと喜んでもらえる施設にしたい」とあいさつしました。



▲テープカットの様子

**実のなる木を植えよう大作戦**

〈坂内の森を美のなる木でいっぱい〉

10月17日（木）、「坂内県有林に実のなる木を植えよう大作戦」が坂内広瀬地区の山林で行われました。

NPO法人揖斐環境レンジャーと財団法人いびがわ生命の水と森の活動センターが主催するこの取り組みは、山に実のなる木を植えて、野生動物にえさを提供し、鳥獣被害を減らすことや揖斐川水源地域の自然環境保全活動を通じて生物多様性にあふれた豊かな森をつくることを目的にしています。また、この事業には、岐阜県森林環境税が活用されています。

10年以上続けられているこの活動には、40人の参加がありました。参加した、坂内小学校の児童は、年間を通して総合的な学習の時間に、森林環境について学んでいます。

この日は、昨年植えたミズナラなどの苗木に肥料を撒いたり、新しく苗木を植えたりと、積極的に作業を進めました。



▲作業の様子

**野菜生産者と給食で交流**

〈大和小学校の児童が野菜を学ぶ〉

10月18日（金）、大和小学校の児童と野菜生産者が一緒に給食を食べる交流会が行われました。

これは、野菜生産者の話を聞いて食べ物の大切さや生産者の気持ちを学ぶ取り組みで、この日は、学校給食に野菜を供給している胥永野菜生産者協会の高橋富美雄さんが大和小学校の1年生の教室を訪れました。

高橋さんは、実物の野菜を手にしながら大豆の話や野菜の肥料の話をして児童の関心をひいていました。話を聞いた児童からは、たくさん質問が飛び出していました。

この日の給食には、児童らが収穫したさつま芋を使ったさつま芋ご飯があり、児童らは高橋さんとの会話を弾ませながらおいしそうにほおばっていました。



▲生産者と給食を楽しむ児童ら

**こいやーかすがまつり**

10月20日（日）、春日モリモリ村で、こいやーかすがまつりが開催され、親子連れや地域の皆さんなど多くの人が訪れました。

この日は、あいにくの雨となりましたが、それでも会場では、地元の子どもたちやサークルの発表や、地元の新鮮野菜や特産物などの販売が行われ賑わいを見せていました。

特にステージで太鼓を披露した春日中学校の生徒は、テンポのいい演奏で来場者の耳を楽しませていました。

その他、地元、春日の太鼓踊りや懐メロ歌謡ショーなどもあり、来場者は楽しい一日を過ごしました。



▲春日中学校児童の太鼓演奏

いび川温泉藤橋の湯  
来場者90万人達成

10月20日(日)、いび川温泉藤橋の湯の来場者数が90万人に達し、施設玄関前で記念のセレモニーが行われました。

90万人目とその前後の方には、お米などの町の特産品が贈呈されました。

90万人目となったのは、滋賀県長浜市の三家隆さんでした。

三家さんは、「自然豊かで隣に道の駅もあり、気に入っている。友達と月に一度は訪れ温泉を楽しんでいる」と話し、喜びを見せていました。

また、前賞は、長浜市の宮田勝之さん、後賞は、大垣市の川端真由美さんでした。

宗宮町長は、「町外からお客様が来ていただけたことは、地域の元気に繋がります。温泉と併せて町の名所を楽しんでもらいたい」と話しました。



▲90万人目の三家さん(左から2人目)

春日下ヶ流バイパスが  
完成しました

平成12年から岐阜県が整備を進めていた春日下ヶ流バイパス(春日六合)が完成しました。

これまでの春日六合地内の道路は、道幅が狭く、自動車のすれ違いが困難で大型車やバスの通行時には渋滞が発生することもありました。

この区間の開通により、大型車のすれ違いが可能となり交通の利便性が向上しました。また、町の観光の活性化や災害時の安心・安全に繋がることも期待されます。

10月21日(月)の完成式典には関係者や多くの地域住民の出席があり、テープカットとくす玉開きで開通を祝いました。

また、開通パレードや地元春日地域の小宮神楽舞なども披露され開通に花を添えました。



▲テープカットの様子

セントジョージマラソン派遣団  
体験報告が届きました!

10月2日(水)～10月9日(水)の8日間、セントジョージマラソン派遣団として、セントジョージマラソンに参加されたランナーの皆さんから、報告書が届きましたので紹介します。

◆序盤の下り坂は大自然の夜明けの風景を楽しむ余裕がありました。街が近づくにつれて沿道の応援が増え、その励ましに手を振って応えるうちに雰囲気に乗せられ、終わってみれば予定よりかなり早いタイムでゴールすることができました。ホームステイでは、言葉の壁を乗り越えて、深いところで人と共通する心根を実感しました。

(山本泰明さん)

◆走り始めてしばらくすると日の出を見ることができ、きれいな日の出に感動しました。絶景を走り抜け、市街地に入る頃になると、沿道での応援がさらに増え、子どもたちとハイタッチをしながら楽しく走ることができました。ホストファミリーは笑顔の素敵な家族でした。とても親切で素晴らしい家族に巡り合うことができ、ホームステイできたことを心より感謝します。

(加古光江さん)

◆ホストファミリーは温かく家族の一員として受け入れてくれ、自宅に

いるようにリラックスができました。セントジョージマラソンでは、いびがわマラソンと同じように市民の方々の応援がたくさんあり、中には「頑張つて!」という日本語での声援があり、とても楽しく最後まで走ることができました。自己記録を約10分短縮することができ自己ベストでした。

(牧村哲男さん)

◆全く違う環境の中でのマラソンは、新鮮な点が多く、マラソンのおもしろさを新たに発見し、より好きになりました。セントジョージの方々のたくさんの方々の応援も、いびがわマラソンに負けず素晴らしく、とても力になりました。ホームステイでは、とても温かい家庭で協力して受け入れてもらえ、感謝の気持ちでいっぱいです。

(山本真理子さん)



▲セントジョージマラソンスタート地点で記念写真